



日本遺産
JAPAN HERITAGE
糸部物語

由木中央小



令和7年7月18日

学校だより 第5号

八王子市立由木中央小学校

教育目標 「すすんで学習をしよう」 「あったかい心をもとう」 「じょうぶな体をつくろう」

HP アドレス <https://hachioji-school.ed.jp/yugce/> 校長 松山 大作

小さな疑問が希望の翼に！

校長 松山 大作

学校の西門と南門の花壇には、PTA園芸ボランティア同好会の皆様が愛情込めて植えてくださった色とりどりの花々が美しく咲き、子どもたちの登下校を温かく見守ってくれています。また、1年生が育てているアサガオも夏の陽光に包まれて色彩豊かに咲いています。

「なぜ、多くの花々は美しい色をしているのでしょうか？」そんな疑問が湧いてきます。

その理由の一つは、鮮やかな色で蜂や蝶を誘い、花粉を運んでもらうためです。実は、もう一つ理由があります。それは、太陽の光に含まれる紫外線と戦っているからだそうです。適度に日光を浴びることは大切ですが、近年、強い紫外線を浴び続けると、人間はもちろん、植物にも良くないことが分かってきました。しかし、植物は人間のように帽子を被ったり、日陰に移動したりすることはできません。その代わりに、厳しい紫外線から身を守る力が花の美しい色に含まれているのだそうです。つまり、逆境に負けないように努力しているからこそ花は美しくなるのです。そう思うと、身近に咲いている小さな花々にも愛おしいさが込み上げてきます。

「アフリカの環境の母」と称えられている故ワンガリ・マータイ博士は、環境保護活動家でノーベル平和賞を受賞した偉大な学者でした。日本語の「もったいない (MOTTAINAI)」の精神に感銘を受けたことで知られています。かつてケニアの国会議員に得票率98%の圧倒的な支持で当選し、副環境大臣も務めました。

マータイ博士は幼い頃から、「なぜ？」「どうして？」という疑問を大切にしていたそうです。

ある日の朝早く、薄暗い空に流れ星が走り、博士は怖くなって家の中に入り母に尋ねました。

「ねえ、どうして空は落ちてこないの？」すると、母親は優しく答えました。「空は落ちてこないわよ。それはね、私たちの周りを囲んでいる山々には、とても大きな水牛がいて、その水牛には大きなつのがあって、それがお空を支えているからだよ。」博士は、母親の話を聞き、ほっとすると同時に、「何て素敵なお話なんだろう！」と感動したそうです。それ以来、「自然は、どれほど私たち人間を守ってくれているのか。」と考えるようになったそうです。このことが、マータイ博士が環境問題に関心を深めるきっかけとなり、ケニアだけでなく、アフリカ全体の環境政策に影響を与え、砂漠化を食い止める壮大な植林運動につながっていくのです。

これからの激動する社会でたくましく生きていくために必要な力とは、たくさんのお話を聞いておくだけでなく、「なぜ？」「どうして？」という疑問や課題をもち、それを仲間と力を合わせて粘り強く解決していくことだと思います。そして何よりも大切なのは、失敗や間違いを恐れずに、積極的に挑戦していく姿勢ではないかと思っています。

いよいよ子どもたちが楽しみにしている夏休みが始まります。長い休みだからこそできる挑戦や体験をとおして、「なぜ？」「どうして？」という疑問を大事にしてほしいと思います。この小さな疑問が好奇心や探求心を刺激して、子どもたちの世界を大きく広げる「希望の翼」になってくれるはずです。

保護者・地域の皆様方には、1学期の教育活動への温かなご理解とご協力に厚く御礼申し上げます。

